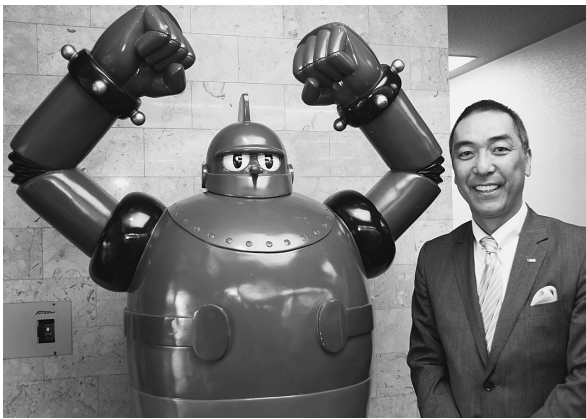


### まちなかの夢を大切に

(株) 阿部玩具代表取締役社長  
阿部 龍太氏



弊社は元々、山形市三日町で明治時代より桐ダンス作りを生業(なりわい)とし、山形を代表する商家長谷川家、三浦家にも納めていたと聞いています。現在の事業の創業は昭和24年のことで、第2次世界大戦の激戦地ボルネオ島から復員した文三郎が阿部家の養嗣子に入り、「阿部商店」の屋号で玩具、文具、雑貨の卸業を始めました。文三郎は旧制山形中学を卒業後、昭和11年にオランダ領東インドのジャワ島(現在のインドネシア)スラバヤの貿易会社に入社。半年後に海軍軍司令部から南方作戦要員として徴用され、軍司令部付通訳として現地で終戦を迎えました。帰国したのは昭和23年のことです。

そうした海外での経験と先見の明があったのでしょう。当初は、それまでの桐ダンス作りと、おもちゃ問屋の2本立てでしたが、昭和30年代に入り生活様式がますます西洋化して桐ダンスの需要が大幅に減少してきたため、ほどなく玩具卸業一本に絞りました。温泉場の土産店にピンポン玉やセルロイド製の人形を売り歩く行商からスタートした商売は、高度経済成長の波にも乗って順調に発展。取扱商品も増大しかつ多様化しました。

昭和40年に法人組織に改めて「株式会社阿部玩

具」を設立。52年に本社を三日町から現在の山形流通団地に移転しました。私にとって阿部家は母方の実家になります。福井大学建築工学部の教授だった実父城谷豊が退官後、一時経営に参画。私は平成6年に東京での生活に終止符を打って入社し、3年後に社長に就任し今日に至っています。

私が入社した当時、弊社は玩具メーカーの東北の総代理店のような位置付けで、山形県内はもとより東北一円の玩具専門店や大規模玩具チェーン店、地元百貨店等に卸し、かなりの業績を挙げていました。しかし平成3年、世界展開している大型玩具専門店「トイザラス」の日本進出を機に競争が激しくなり、大規模玩具チェーン店や大手量販店においては、仕入価格引き下げのために本部が一括購入して地方への配送を開始したため、地方の中間流通業者は壊滅状態となりました。一方で、まちのおもちゃ屋さんも長引く不況による消費低迷に加え、大型店の低価格戦略に押されて1つ消え2つ消えしていきました。

「自転車に乗っていつでも遊びに行ける“まちのおもちゃ屋さん”をなくしたくない」、「まちなかに夢と楽しみと喜びを残したい」。流通形態は変遷しても、私たちが社会から求められている役割や使命は同じです。頑張っている小売店をきめ細かく回って情報を提供しアドバイスする、といった問屋本来の使命とともに、まちにおもちゃ屋を残すために小売店の存続を支援したり、撤退した店を引継ぐ形で米沢、会津に直営の小売店「おもちゃ屋本舗」を展開しています。また、経験豊富な社員に、日本人形協会認定の「節句人形アドバイザー」の資格を取ってもらい、お客様に安心してご購入していただける体制を整えて節句人形販売にも力を入れています。そしてもう一つの取り組みがイベント事業です。ご当地ヒーロー出羽戦士「ガ・サーン」を世に送り出したのをはじめ、アンパンマンショーなど人気キャラクターの着ぐるみショーの企画、運営も手掛けています。

山形に来て21年が経ち2歳だった長男は社会人に、山形で生まれた次男は大学生、長女は高校2年生になりました。営業範囲は北海道から東北を中心に関東までですが、地元が基本です。お世話になっている感謝の念と、創業者のおもちゃ販売に賭けた思いを糧に、「総合エンターテインメント企業」を目指し、多くの方々に感動をお届けできるようチャレンジしてまいります。

(山形商工会議所議員)